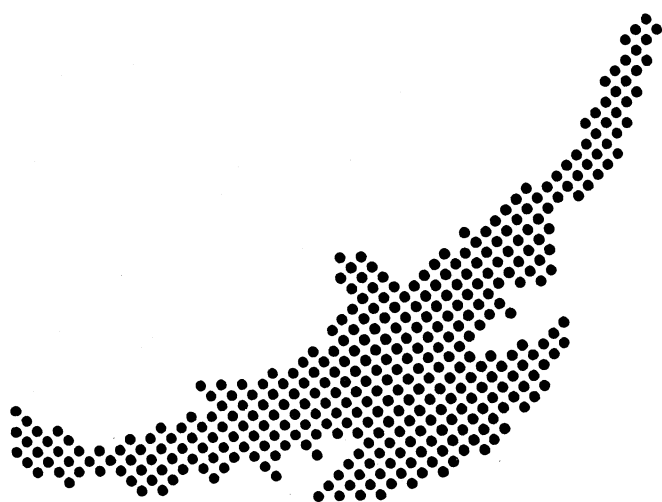


第 22 回エンジニアリング功労者賞 受 賞 者 紹 介



平成 1 4 年 7 月

財団法人エンジニアリング振興協会

受賞者名簿

<グループ表彰> 国際協力

名 称	代 表 者（現職）・構成員数
スエズ運河橋プロジェクトチーム [鹿島建設(株), NKK, 新日本製鐵(株)]	石 建 憲 章 (鹿島建設(株) 海外事業本部営業統括部長) 石 井 孝 (NKK 橋梁建設部部長) 奥 本 武 司 (新日本製鐵(株) 建設・技術部グループマネジャー) 31名
インドネシア ボンタンアンモニアプラント建設プロジェクトチーム [三菱重工業(株)]	矢 野 雅 義 (三菱重工業(株) 機械事業本部プラント事業センター プロジェクト部プロジェクトマネージャー) 36名

<グループ表彰> エンジニアリング振興

名 称	代 表 者（現職）・構成員数
札幌ドーム向けホヴァリングステージの開発グループ [川崎重工業(株), 大成建設(株), (株)竹中工務店]	岡 田 茂 美 (川崎重工業(株) プラント・環境・鉄構カンパニー 鉄構ビジネスセンター営業総括部 機器・装置営業部担当部長) 西 川 薫 (大成建設(株) 設計本部技術グループシニアエンジニア) 油 川 真 広 ((株)竹中工務店 先進構造本部副部長) 9名
日本新薬新固形剤棟建設チーム [千代田化工建設(株)]	松 本 治 (千代田化工建設(株) 医薬品エンジニアリング部技師長) 26名

<グループ表彰> 環境貢献

名 称	代 表 者（現職）・構成員数
残土流動化リサイクル工法（フローデル）チーム [前田建設工業㈱]	かつ 又 正 治 （前田建設工業㈱ 技術本部技術研究所技術開発 土木グループ副部長） 4名
プラスチック接触材を用いた河川の水質浄化システム「リバ・フレッシュ」開発プロジェクトチーム [㈱間組]	の 村 和 弘 （㈱間組 技術・環境本部環境事業開発部課長） 14名
別海資源循環施設建設プロジェクトチーム [大成建設㈱]	ふく 井 清 正 （大成建設㈱ エンジニアリング本部 エネルギー・インフラ 施設計画グループグループリーダー） 8名

<グループ表彰> 特別テーマ

（中小規模のプロジェクトを対象とした特別枠）

名 称	代 表 者（現職）・構成員数
LNG直接噴霧冷却システム開発チーム [東京電力㈱，NKK]	こ ばやし たかし 小 林 隆 （東京電力㈱ 富津火力建設所副所長） さい とう こう いち 斉 藤 晃 一 （NKK エネルギーシステム技術部低温システムグループ マネージャー） 15名
電食技術を利用した杭芯材劣化によるシールド機直接発進工法開発グループ [飛島建設㈱，日本防蝕工業㈱]	むかい だに つね まつ 向 谷 常 松 （飛島建設㈱ 機電統轄部担当部長） 7名

＜個人表彰＞ 国際協力

氏 名	現 職
つ だ みのる 津 田 稔 1943 年（昭和 1 8 年）生まれ	鹿島建設(株) 海外事業本部副本部長
よし かわ やす ひこ 吉 川 康 彦 1942 年（昭和 1 7 年）生まれ	東洋エンジニアリング(株) エンジニアリング本部 プロセスシステムグループ コミッショニング マネージャー

＜個人表彰＞

氏 名	現 職
お はら しげ のぶ 小 原 重 信 1938 年（昭和 1 3 年）生まれ	千葉工業大学 社会システム科学部教授
た なか ひろし 田 中 弘 1943 年（昭和 1 8 年）生まれ	日揮(株) 企画調整室副室長

<グループ表彰> エンジニアリング振興

○ 札幌ドーム向けホヴァリングステージの開発グループ

〔川崎重工業㈱, 大成建設㈱, ㈱竹中工務店〕

代 表 者 ^{おか}岡 ^だ田 ^{しげ}茂 ^み美 (川崎重工業㈱ プラント・環境・鉄構カンパニー
鉄構ビジネスセンター営業総括部機器・装置営業部担当部長)

^{にし}西 ^{かわ}川 ^{かおる}薫 (大成建設㈱ 設計本部技術グループシニア
エンジニア)

^{あぶら}油 ^{かわ}川 ^{まさ}真 ^{ひろ}広 (㈱竹中工務店 先進構造本部
特殊構造担当副部長)

メンバー 9名 (川崎重工業㈱3名, 大成建設㈱3名, ㈱竹中工務店3名)

ホヴァリングステージは比較的小さな空気圧 (約 900 mm Ag、大気圧の約 9%) で総重量 (約 8300 t、平面寸法約 85×120m) の約 90% を支持、浮上させ、ステージ外周部に配置した車輪で移動させる、世界初の「エア浮上車輪駆動併用方式」による天然芝可動装置である。

昨年6月の札幌ドームのオープニング以来、ホヴァリングステージはトラブル無く稼動し、野球場、サッカー場、イベント会場として地域経済の活性化に大いに貢献した。

また、今後スポーツ施設としての国内・海外での需要創出とともに、大規模・大重量物の水平移動システム、大スパン建築物の床構造としての用途拡大が期待できる。本技術は2002年ワールドカップ会場として世界にPRされた。

○ 日本新薬新固形剤棟建設チーム

〔千代田化工建設㈱〕

代 表 者 ^{まつ}松 ^{もと}本 ^{おさむ}治 (千代田化工建設㈱ 医薬品エンジニアリング部
技師長)

メンバー 26名 (千代田化工建設㈱17名, 千代田テクノス㈱8名,
千代田工商㈱1名)

今回完成した工場は、年間10億錠の錠剤、8千万個のカプセル、27トンの顆粒を製品とする約50品目の生産能力をもつ日本で最大級の固形製剤製造工場である。

製薬工場にバリデーションを含めて無人自動化・汚染防止のエンジニアリングを確立した。エンジニアリング産業が医薬分野へ積極的に進出を図っている時期に、世界初の完全自動無人化システムを導入し、高度なコンピュータ利用による生産管理システムを備えた工場を実現した意義は大きい。

＜グループ表彰＞ 環境貢献

○ 残土流動化リサイクル工法（フローデル）チーム

〔前田建設工業(株)〕

代 表 者 ^{かつ}勝 ^{また}又 ^{まさ}正 ^{はる}治（前田建設工業(株) 技術本部技術研究所
技術開発土木グループ副部長）

メンバー 4名（前田建設工業(株)3名，(株)ミヤ工業1名）

流動化処理工法（建設発生土に水とセメント等を添加して流動化させ、掘削した部分の埋め戻し土として空隙を充填）は、建設発生土の有益な有効利用方法として今日注目されている工法である。従来技術は、発生する土砂の性状が砂質土～粘性土へと異なると、品質管理が難しく、適用が困難であった。フローデルはこうした問題点を解決し、様々な建設発生土を埋め戻し土として有効利用でき、環境に大きく貢献できる技術である。

処分場を保有していない建設会社の残土処理に大きな需要がある。年間約5億トンに上る建設残土の処理に活路を見出す一つの工法であり、環境貢献の意義は大きい。

○ プラスチック接触材を用いた河川の水質浄化システム「リバ・フレッシュ」開発プロジェクトチーム

〔(株)間組〕

代 表 者 ^の野 ^{むら}村 ^{かず}和 ^{ひろ}弘（(株)間組 技術・環境本部環境事業開発部課長）

メンバー 14名

従来の「礫」に代わり再生プラスチックを用いた河川や湖沼の水質浄化システム「リバ・フレッシュ」を開発し、従来技術や類似システムと比較して浄化性能に優れ、かつ経済的な施設を実用化させることに成功した。

現在世界的に河川浄化の主流となっている礫間接触浄化法を遥かに上回る性能と機能寿命を持つ技術である。各社技術の中でトップの成績である。浄化ステップに応じた沈殿～酸化の機能分担、汚泥移動の工夫を図り、従来の接触浄化処理の常識を上回る成果を得ている。省スペース、低コスト、高効率であり、実績も豊富で、汎用性も高い水質浄化システムである。

○ 別海資源循環施設建設プロジェクトチーム

〔大成建設㈱〕

代 表 者 ^{ふく}福 ^い井 ^{きよ}清 ^{まさ}正（大成建設㈱ エンジニアリング本部
エネルギー・インフラ施設計画グループグループリーダー）

メンバー 8名（大成建設㈱8名）

酪農地帯の家畜ふん尿による地下水汚染は、国内・海外を問わず、深刻な問題である。本プラントは、バイオマス活用に特有な原料組成変動に対応し、さらに将来生産者に管理を委譲するために、システム全体を簡便にした。本施設は、北海道では最大規模の1,500m³のメタン発酵槽を持ち、一日に乳牛1,000頭分約50トンのふん尿処理能力を有し、生成したバイオガスを燃料とするコジェネレーション設備を備えた「広域集中型の処理システム」である。今後の家畜ふん尿処理方法の技術確立し、家畜ふん尿による水質、土壌汚染防止を図り、環境保全に寄与するものである。

＜グループ表彰＞ 特別テーマ（中小規模のプロジェクトを対象とした特別枠）

○ LNG直接噴霧冷却システム開発チーム

〔東京電力㈱、NKK〕

代 表 者 ^こ小 ^{ばやし}林 ^{たかし}隆（東京電力㈱ 富津火力建設所副所長）

^{さい}斉 ^{とう}藤 ^{こう}晃 ^{いち}一（NKK エネルギーシステム技術部

低温システムグループマネージャー）

メンバー 15名（東京電力㈱10名、NKK5名）

本グループは、世界で初めて、気化して高温となったBOG（ボイルオフガス）の冷却に、LNG自体の冷熱を利用した冷却システムとして「LNGを高温ガス中に直接噴霧混合する方式」を考案し、極めてシンプルでコンパクトな制御応答性のよい冷却設備を開発した。

本技術は、①保守コストの削減、②冷熱利用、③システム構成の単純化を併せて実現した。従来の常識を破る新しい発想で、BOGの利用に高い効率性を持たせた功績は大きい。

○ 電食技術を利用した杭芯材劣化によるシールド機直接発進工法開発グループ

〔飛島建設㈱、日本防蝕工業㈱〕

代 表 者 ^{むかい}向 ^{だに}谷 ^{つね}常 ^{まつ}松（飛島建設㈱ 機電統轄部担当部長）

メンバー 7名（飛島建設㈱3名、日本防蝕工業㈱3名、㈱三央1名）

本工法は電食作用により、土留め壁の応力部材（鋼材）をカッタービットで切削可能な強度まで薄肉劣化させシールド機で直接切削するものである。建設分野で本技術を応用した施工法は世界で初めてである。

大深度地下利用の推進にあたり、立坑深部の発進点地盤改良が大きな問題となっている。本工法は大深度地下空間利用では主要な応力部材である鋼材を電食により劣化させ、シールド機のカッタービットにより切削し、直接発進させるものである。立坑深部における従来工法に残されていた施工性、環境安全性、コストを別の切り口から3つとも解決したものである。さらに、本工法は通常的手段では不可能と考えられた場面への新たな展開が期待できる技術である。

<個人表彰>国際協力

○ 津 田 稔

鹿島建設(株) 海外事業本部 副本部長

1943年(昭和18年)生まれ

氏は、シンガポール、インドネシア、マレーシア、インド、中央アフリカと多くの国で土木工事に長年に亘り携ってきた。どの現場でも現地エンジニア、フォアマン、作業員に至るまで、日本の優れた技術の移転に心血を注いだ。氏の経験と知識をもとに、現地建設関連企業を相手に多数の講習会、講演会を行い、日々の業務を通して現地の土木技術レベルの向上、発展に貢献してきた。

特に、現地調査期間を含めて通算4年間におよぶ中央アフリカの国道3号線舗装化工事は、同国での日本企業初の建設工事であり、現地の社会制度、資機材輸送、労働者の確保、さらには風土病との闘い等、多くの困難を克服して工事を完成へと導いた。氏が同国の建設技術の発展に果たした貢献は非常に大きく、その功により同国から叙勲も受けている。氏が海外土木工事の発展に尽くした功績は大きい。

○ 吉 川 康 彦

東洋エンジニアリング(株) エンジニアリング本部

プロセスシステムグループ コミッショニングマネージャー

1942年(昭和17年)生まれ

氏は、入社以来30年に亘り18カ国において各種のプラント建設の総まとめといえるコミッショニング、現地運転員指導、性能保証運転実施に携わり、氏が海外に滞在した期間は23年間を越える。氏が教育指導した現地人運転要員は、合計1,000名以上にもなり、客先及び客先運転担当者からは氏の幅広い知識と経験・人柄を含め絶大な信頼を集め、技術移転と国際協力の実現に多大な貢献を果たしてきた。

氏は、30年に亘りトラブルなくオペレーションS/V、マネージャーを勤めてきた。氏の幅広い知識と経験は世界各国の客先の信頼に繋がっており、同時に日本のエンジニアリング企業の信頼向上にも結びつき、国際協力に果たした貢献は大きい。

<個人表彰>

○ 小^お原^{はら}重^{しげ}信^{のぶ}

千葉工業大学 社会システム科学部 教授
1938年（昭和13年）生まれ

氏は、当協会が経済産業省の支援を受けて1999年度から3年間にわたり実施した「PM導入開発調査」の委員長として、日本初のPM知識体系「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック（P2M）」およびプロジェクトマネジメント資格認定制度の取りまとめにあたった。さらに、その成果を昨年11月の国際プロジェクトマネジメント大会2001において世界に向けて発信し高い評価を得た。

また、当協会が行っているPM基礎講座においては、1999年以降10年間にわたり「プロジェクトマネジメントと組織」の講座を担当し、数多くのエンジニアの育成に当たった。このように、プロジェクトマネジメントの研究、開発、普及等を通じてわが国エンジニアリング産業の発展に貢献した功績は極めて大きい。

○ 田^た中^{なか}弘^{ひろし}

日揮(株) 企画調整室副室長
1943年（昭和18年）生まれ

氏は、昨年11月当協会および日本プロジェクトマネジメント・フォーラム主催による国際プロジェクトマネジメント大会2001において、**Project Director**として周到な準備の下に、国内実行組織の取りまとめ、海外PM関係団体の協賛の取り付け、世界PM界のトップレベルの方の講師への招聘などにより大会を成功に導き、併せて世界へのP2Mの発信によりわが国のプロジェクトマネジメントを国際的に認知させた功績は極めて大きい。

また、同氏は長年にわたりPMI、IPMA、AIPMなど諸外国のPM関係団体との国際交流とネットワークの構築に努めるとともに、国内においては日本プロジェクトマネジメント・フォーラムの副会長（現会長）としてPMの普及啓蒙、教育等を通じエンジニアリング産業の発展に貢献した功績は極めて大である。

グループ（チーム）表彰の構成員リスト（代表者以外）

【スエズ運河橋プロジェクトチーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 片山 昇	鹿島建設スエズ運河橋出張所副所長	鹿島建設㈱
2. 上迫田和人	鹿島建設スエズ運河橋出張所副所長	鹿島建設㈱
3. 大森 裕彦	鹿島建設スエズ運河橋出張所副所長	鹿島建設㈱
4. 古川 直樹	鹿島建設スエズ運河橋出張所次長	鹿島建設㈱
5. 山崎 賢三	鹿島建設スエズ運河橋出張所次長	鹿島建設㈱
6. 斎藤 裕	鹿島建設スエズ運河橋出張所次長	鹿島建設㈱
7. 嵯峨 寛	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事課長	鹿島建設㈱
8. 片桐 冬樹	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事課長代理	鹿島建設㈱
9. 佐野 演秀	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事課長代理	鹿島建設㈱
10. 巴 紀行	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事課長代理	鹿島建設㈱
11. 喜井 昭捷	鹿島建設スエズ運河橋出張所機電課長代理	鹿島建設㈱
12. 高橋 淳	鹿島建設スエズ運河橋出張所機電課長代理	鹿島建設㈱
13. 三田 透	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事課長代理	鹿島建設㈱
14. 岡田 浩司	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事担当技師	鹿島建設㈱
15. 浜田 武	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事担当技師	鹿島建設㈱
16. 戸張 正利	鹿島建設スエズ運河橋出張所工事担当技師	鹿島建設㈱
17. 斎藤 直	NKK／新日鐵J.V副所長	NKK
18. 高橋 和弥	NKK／新日鐵J.V副所長	NKK
19. 奥本 大介	NKK／新日鐵J.V事務マネージャー	NKK
20. 名田 義司	NKK／新日鐵J.V事務マネージャー	NKK
21. 鎌田 達也	NKK／新日鐵J.V事務マネージャー	NKK
22. 須賀 昌隆	NKK／新日鐵J.V品質保証マネージャー	NKK
23. 町野 俊介	NKK／新日鐵J.V品質保証マネージャー	新日本製鐵㈱
24. 鈴木 晋一	NKK／新日鐵J.V輸送担当マネージャー	新日本製鐵㈱
25. 高見 伸一	NKK／新日鐵J.Vケーブル担当技師	新日本製鐵㈱
26. 金本 真一	NKK／新日鐵J.V工事課長	NKK
27. 高橋 成幸	NKK／新日鐵J.V工事担当技師	NKK
28. 糸永 憲司	NKK／新日鐵J.V工事担当技師	NKK

【インドネシア・ボンタンアンモニアプラント建設プロジェクトチーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 中川 英夫	元プロジェクト マネージャー	三菱重工㈱
2. 奥住 尚哉	エンジニアリング マネージャー	三菱重工㈱
3. 大崎 典司	総合サイト マネージャー	三菱重工㈱
4. 葉山 晃	サイト マネージャー	三菱重工㈱
5. 鹿島 秀二	ビジネス マネージャー	三菱重工㈱
6. 倉満 敏雄	スケジュール コントローラー	三菱重工㈱
7. 奥田 昌文	コスト コントローラー	三菱重工㈱
8. 箕西一治	QAMネージャー	三菱重工㈱
9. 松本正明	PM/ミッドマン	三菱重工㈱
10. 石田和生	運輸担当	菱和エンジニアリング㈱
11. 門藁	シニアプロセスエンジニア	菱和エンジニアリング㈱
12. 徳永仁	リードプロセスエンジニア	三菱重工㈱
13. 三阪純二	プロセスエンジニア	三菱重工㈱
14. 玉井忠	シニア配管エンジニア	菱和エンジニアリング㈱
15. 武藤義信	リード配管エンジニア	三菱重工㈱
16. 平賀純一郎	配管エンジニア	三菱重工㈱
17. 秋葉俊哉	配管エンジニア	三菱重工㈱
18. 松尾元弘	配管エンジニア	三菱重工㈱
19. 春名健介	シニア機械エンジニア	菱和エンジニアリング㈱
20. 小平秀徳	リード機械エンジニア	三菱重工㈱
21. 田島諭	機械エンジニア	三菱重工㈱
22. 日下龍太郎	機械エンジニア	三菱重工㈱
23. 濱田健次	リード機器エンジニア	三菱重工㈱
24. 池田秀克	リードファーマネスエンジニア	三菱重工㈱
25. 片山哲司	ファーマネスエンジニア	三菱重工㈱
26. 池本誠	リード計装エンジニア	三菱重工㈱
27. 市川栄	計装エンジニア	三菱重工㈱
28. 佐々木亮太	計装エンジニア	三菱重工㈱
29. 石山浩司	リード電気エンジニア	三菱重工㈱
30. 外賀秀明	リード土建エンジニア	三菱重工㈱
31. 山田正人	土建エンジニア	三菱重工㈱
32. 江本大輔	土建エンジニア	三菱重工㈱
33. 八木茂樹	配管SI	三菱重工プラント建設㈱
34. 中峯高義	据付SI	三菱重工プラント建設㈱
35. 石原和一	電気SI	アズマ技研㈱

【札幌ドーム向けホヴァリングステージの開発グループ】

氏 名	役 割	所属企業
1. 友野 達夫	ホヴァリングステージの共同開発	川崎重工㈱
2. 川原 伸太	ホヴァリングステージの共同開発	川崎重工㈱
3. 小竹 達也	ホヴァリングステージの共同開発	大成建設㈱
4. 中田 慎吾	ホヴァリングステージの共同開発	大成建設㈱
5. 林田 英俊	ホヴァリングステージの共同開発	勝竹中工務店
6. 青柳 隼太	ホヴァリングステージの共同開発	勝竹中工務店

【日本新薬新固形剤棟建設チーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 阿武 修	プロジェクトマネージャー	千代田化工建設㈱
2. 宮崎 雅夫	エンジニアリングマネージャー	千代田化工建設㈱
3. 村澤 慶一	製剤機械担当	千代田化工建設㈱
4. 奥澤 晋	製剤機械担当	千代田化工建設㈱
5. 三川 登	包装機械担当	千代田化工建設㈱
6. 伊藤 規博	包装機械担当	千代田化工建設㈱
7. 西田 真二	ユーティリティ担当	千代田化工建設㈱
8. 森山 太一郎	物流設備、製造機械担当	千代田化工建設㈱
9. 内山 隆夫	機械設計担当	千代田化工建設㈱
10. 加藤 三治	生産管理システム統括	千代田化工建設㈱
11. 大島 守	生産管理システム担当	千代田化工建設㈱
12. 難波江 晃	物流システム担当	千代田化工建設㈱
13. 松本 喜一	所長	千代田化工建設㈱
14. 紺野 治夫	バリデーション担当	千代田化工建設㈱
15. 菅野 正毅	バリデーション担当	千代田化工建設㈱
16. 内海 隆一	安全管理	千代田化工建設㈱
17. 河島 勇	建築設計統括	千代田テクノエース㈱
18. 渡辺 裕之	建築担当	千代田テクノエース㈱
19. 汐崎 優子	建築担当	千代田テクノエース㈱
20. 金子 晃	建築設備統括	千代田テクノエース㈱
21. 徐 康偉	建築設備担当	千代田テクノエース㈱
22. 山本 知之	建築設備担当	千代田テクノエース㈱
23. 沼津 雅人	電気設備統括	千代田テクノエース㈱
24. 福島 貴博	電気設備担当	千代田テクノエース㈱
25. 桐原 賢治	バリデーション担当	千代田工商㈱

【残土流動化リサイクル工法（フローデル）チーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 清水 英樹	フローデルの開発	前田建設工業㈱
2. 林原 茂	フローデルの開発	前田建設工業㈱
3. 白根 六郎	フローデルの開発	㈱ミヤマ工業

【プラスチック接触材を用いた河川の水質浄化システム「リバ・フレッシュ」開発プロジェクトチーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 吉見 憲一	開発：技術・環境本部 副本部長	㈱関組
2. 畠山 修	開発：技術・環境本部 環境事業開発部 部長	㈱関組
3. 山口 修一	開発：技術・環境本部 環境事業開発部 部長	㈱関組
4. 則松 勇	開発：技術・環境本部 環境事業開発部 主任	㈱関組
5. 野原 勝明	開発：技術・環境本部 環境修復事業部 主任	㈱関組
6. 広瀬 昭夫	施工：関東支店 野々下作業所 所長	㈱関組
7. 福本 宏	施工：関東支店 流山作業所 所長	㈱関組
8. 西村 洋文	施工：四国支店 土木部 主任	㈱関組
9. 牛尾 義嗣	施工：広島支店 島根営業所 所長	㈱関組
10. 末延 光	施工：四国支店 高知営業所 所長	㈱関組
11. 高橋 富美雄	施工：名古屋支店 岐阜営業所 課長	㈱関組
12. 大和田 聖	施工：関東支店 野々下作業所 主任	㈱関組
13. 黒澤 猛	施工：関東支店 流山作業所 主任	㈱関組

【別海資源循環施設建設プロジェクトチーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 澤田 和志	営業担当	大成建設㈱
2. 羽川 富夫	プラント建設統括管理	大成建設㈱
3. 小嶋 金二	プラント設計担当	大成建設㈱
4. 大原 孝彦	プラント建設/試運転担当	大成建設㈱
5. 帆秋 利洋	生物工学担当	大成建設㈱
6. 程野 豊	プラント設計/試運転担当	大成建設㈱
7. 原田 慎	土木設計担当	大成建設㈱

【LNG直接噴霧冷却システム開発チーム】

氏 名	役 割	所属企業
1. 中山 幸司	開発：実用化統括管理	東京電力㈱
2. 熊澤 稔雄	初期構想及びコスト分析	東京電力㈱
3. 市村 浩一	発電設備への影響評価	東京電力㈱
4. 穂苅 弘一	要素技術開発管理	東京電力㈱
5. 志摩 弥宏	LNG基地全体系統への適合性評価	東京電力㈱
6. 吉澤 宏幸	実機建設管理（機械エンジニア）	東京電力㈱
7. 長坂 友次	LNG基地全体での運用制御性評価	東京電力㈱
8. 小川 知孝	既設制御設備との適合性評価	東京電力㈱
9. 浅 昌也	実機建設管理（制御エンジニア）	東京電力㈱
10. 宇根 浩	開発：設計（機械エンジニア）	NKK
11. 林 進	開発：建設（計測エンジニア）	NKK
12. 高木 靖夫	開発：設計（制御エンジニア）	NKK
13. 高橋 信吾	要素技術開発・研究（研究所）	NKK

【電食技術を利用した杭芯材劣化によるシールド機直接発進工法開発グループ】

氏 名	役 割	所属企業
1. 岡 利博	杭芯材電食の効率化開発・技術マニュアルの作成	飛島建設㈱
2. 荒川 康広	杭芯材電食の効率化開発・電食完了判断手法の確立	飛島建設㈱
3. 大高 章吾	電食進行判断・環境影響評価手法確立の指揮	日本防蝕工業㈱
4. 植田 英樹	杭芯材電食進行状況判断手法の確立	日本防蝕工業㈱
5. 養祖 学	杭芯材電食時の環境への影響評価手法の確立	日本防蝕工業㈱
6. 西嶋 祐一	電解液性状回復技術の開発	㈱三央